

編集後記：3月中旬までの春の陽気から一転して、大変寒い新年度の始まりとなりました（私がこの原稿を書いているのは、4月はじめ頃です）。このような天候の影響もあって、今春は桜が長持ちし、桜をじっくり楽しむ機会が多かったように思います。お花見を十分に満喫された方も多かったのではないのでしょうか。

私は4月から京都に移りまして、桜が咲き誇る鴨川沿いを5 km程歩いたのですが、風がとても強かったこともあってか、体感的には冬のような寒さでした。最近の寒暖差が大きい状況について、「これは地球温暖化の影響？」などと、何の根拠もない想像を膨らませてみましたが、これは気象学会誌「天気」の編集後記ですので、科学的根拠がない発言はここまでに留めておきたいと思います。とはいえ、近年の天候は、一

昔前の天候とは何か違うと感じています。私が幼かった頃（1980年代後半～1990年代前半頃）は、季節の移り変わりをもっと楽しむことができたように記憶しています。

地球温暖化が、去年の夏のような極端な大雨や異常な高温にどれだけ関連しているのかについては、定量的な評価が大変難しいとされていますが、私も含めた読者の皆さんにとって、とても興味がある事柄だと思います。これからも、多くの方々に、毎年の季節の移り変わりや気候変動、異常気象を含む最新の話題に関して、「天気」の記事を興味深く読んでいただくために、気候情報に関する新しい話題を、出来るだけ分かりやすい言葉で提供していきたいと思います。

（竹村和人）